

日立金属株式会社
2017年度決算
2018年度業績 見通し

2018年4月26日

需要 動向

**世界経済は、先進国を中心に緩やかに回復
国内は、世界経済の回復を受けて輸出や設備投資が
持ち直すとともに、雇用・所得環境の改善が継続し、
景気は緩やかな回復基調**

- **自動車の新車販売台数は、米国では前年同期と比べて減少したが、国内では新型車が需要をけん引する形で伸長し、中国・欧州も堅調に推移**
- **産業インフラ関連は、鉄鋼は、自動車や産業機械をはじめとする製造業部門を中心に需要が増加
住宅着工戸数は、米国は増加、国内は減少傾向**
- **エレクトロニクス関連は、携帯端末の出荷台数が伸長**

2. 2017年度業績

(金額単位: 億円) ()は利益率	2016年度 実績		2017年度 実績		前年度 対比	補足
	1\$=108円 1€=119円 1元=16.1円		1\$=111円 1€=130円 1元=16.8円			
売上収益	9,105		9,883		+9%	主力製品を中心に需要が増加したことに加え、原材料価格上昇(価格スライド制)や為替の円安の影響により増加
調整後営業利益*1	(7.2%) 660		(6.6%) 651		△9	耐熱鋳造部品やアルミ製品の収益性低下や原材料価格上昇に伴うコストの増加により減少
その他の収益	141		54		△87	前年同期は事業再編等利益を計上
その他の費用	△ 118		△ 242		△124	減損損失計上他
IFRS営業利益	(7.5%) 683		(4.7%) 463		△220	
EBIT	685		489		△196	
税引前当期利益	660		470		△190	
法人所得税費用	△ 153		△ 49		+104	米国の税制改正による費用の減少等
親会社株主に帰属する当期利益	506		422		△84	
ROE*2	9.4%		7.5%		△1.9%	
ROA*3	4.9%		4.0%		△0.9%	
海外売上比率*4	56%		56%		0%	

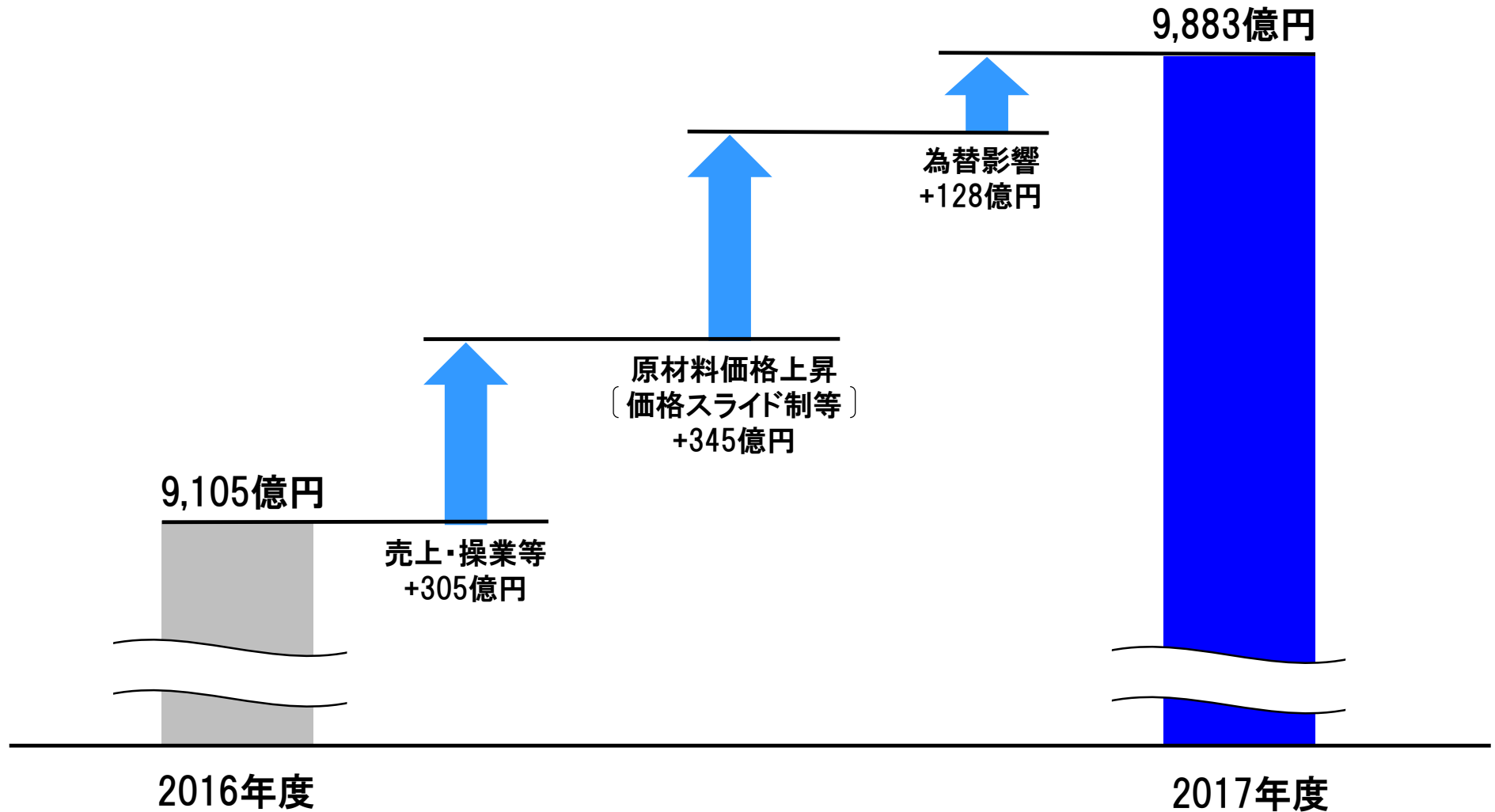
*1 調整後営業利益=(売上収益) - (売上原価) - (販売費及び一般管理費)

*2 親会社株主持分当期利益率(ROE) = 親会社株主に帰属する当期利益 ÷ 期末親会社株主持分 × 100

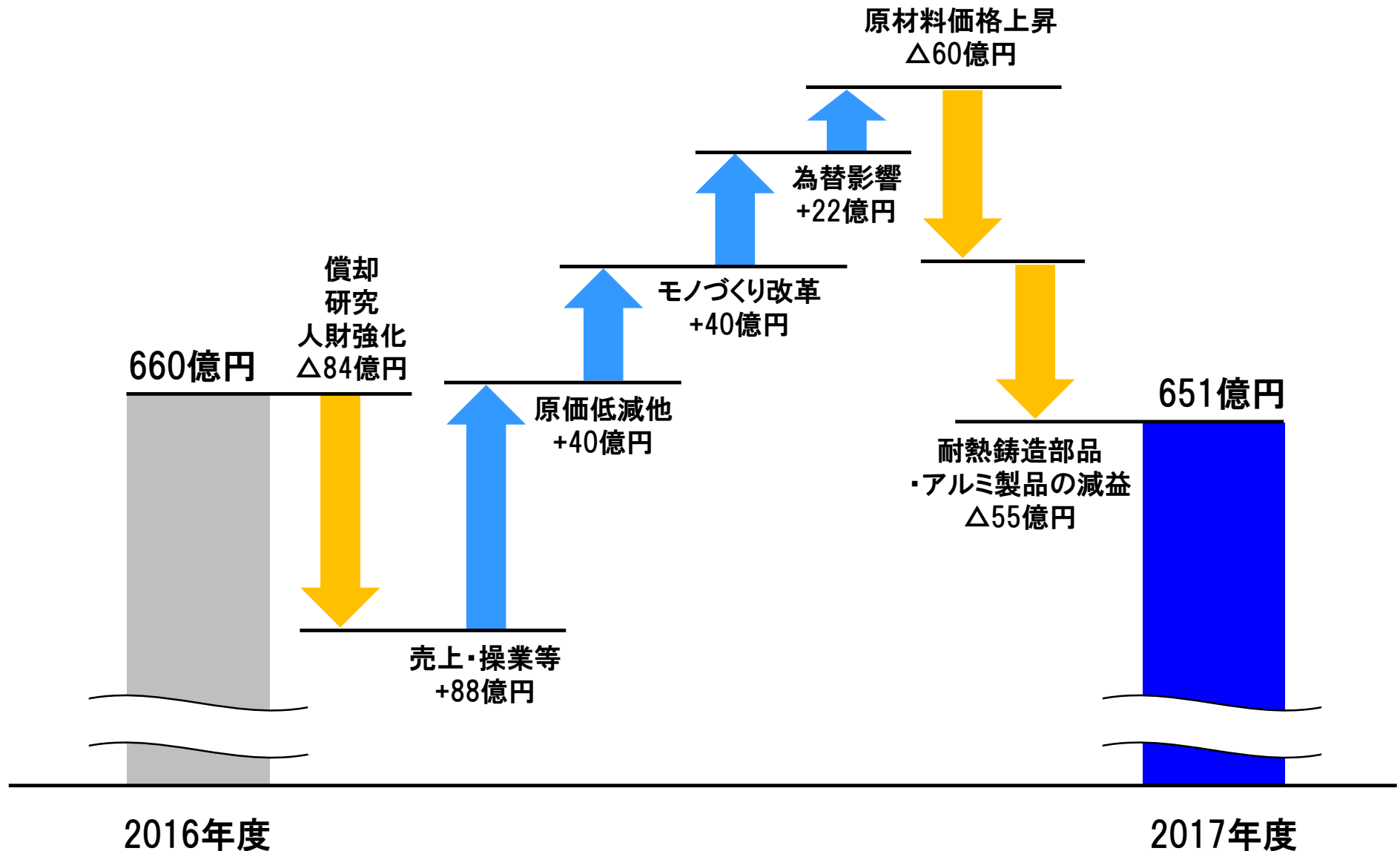
*3 資産合計当期利益率(ROA) = 親会社株主に帰属する当期利益 ÷ 期末資産合計 × 100

*4 海外売上地域別構成比 17年度:北米30%、中国8%、その他アジア12%、欧州5%、その他1%
16年度:北米31%、中国7%、その他アジア12%、欧州5%、その他1%

3. 売上収益の増減要因(前年度対比)



4. 調整後営業利益の増減要因(前年度対比)



5. 2017年度セグメント別業績

(金額単位: 億円) ()は利益率		2016年度 実績 1\$=108円 1€=119円 1元=16.1円	2017年度 実績 1\$=111円 1€=130円 1元=16.8円	前年度 対比
特殊鋼製品	売上収益	2,432	2,906	+19%
	調整後営業利益	(9.7%) 235	(9.6%) 279	+44
	セグメント利益	(9.1%) 222	(9.0%) 261	+39
磁性材料	売上収益	998	1,061	+6%
	調整後営業利益	(9.3%) 93	(9.0%) 96	+3
	セグメント利益	(9.3%) 93	(6.9%) 73	△20
素形材製品	売上収益	3,335	3,601	+8%
	調整後営業利益	(5.2%) 175	(3.3%) 118	△57
	セグメント利益	(4.8%) 159	(0.2%) 6	△153
電線材料	売上収益	2,329	2,305	△1%
	調整後営業利益	(6.3%) 147	(6.5%) 149	+2
	セグメント利益	(8.6%) 201	(4.9%) 112	△89
その他・調整額	売上収益	11	10	—
	調整後営業利益	10	9	△1
	セグメント利益	8	11	+3
合計	売上収益	9,105	9,883	+9%
	調整後営業利益	(7.2%) 660	(6.6%) 651	△9
	IFRS営業利益	(7.5%) 683	(4.7%) 463	△220

2017年7月1日付で、連結子会社である株式会社SHカッパー・プロダクツ他1社の所属するセグメント区分を「電線材料」から「特殊鋼製品」に変更し、当連結会計年度の業績は「特殊鋼製品」セグメントに計上。前年同期の数値も変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較。なお、株式会社SHカッパー・プロダクツの業績は、前第4四半期連結会計期間より計上。

6. セグメント別業績：特殊鋼製品(1)

■全体概況

【売上収益・調整後営業利益】

工具鋼、産業機器材料、電子材料を中心に需要が伸長し、増収・増益

■製品別状況

【特殊鋼】

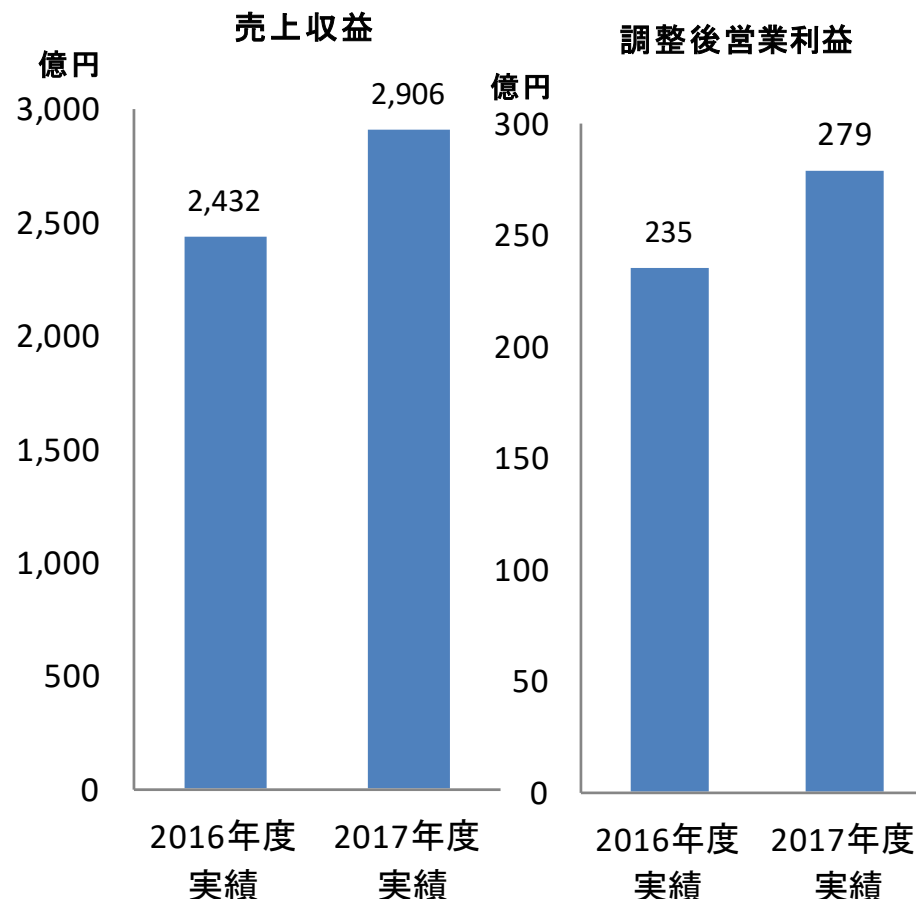
- ・工具鋼：国内向け、アジア向けともに需要が回復し、前年同期を上回った
- ・産業機器材料：自動車関連の環境親和製品が増加
その他産業部材でも半導体関連装置向け部材が増加したことにより、前年同期と比べ伸長
- ・電子材料：半導体パッケージ材料が好調
電池用材料や有機ELパネル関連部材も増加
全体として前年同期を大きく上回った
- ・航空機関連材料およびエネルギー関連材料：
航空機関連材料は航空機エンジン用大型鍛造部材が顧客認定を取得するなど拡大に向けた施策が順調に推移したが、エネルギー関連材料は低調となり、全体としては前年同期を下回った

【ロール】

- ・射出成形機用部品：携帯端末の需要増加を受けて好調
この結果、ロール全体としては前年同期と比べて増加

【軟磁性部材】

軟質磁性材料およびその応用品については、応用品が携帯端末や自動車向けの需要増加により堅調。アモルファス金属材料は減少
全体としては前年同期を下回った



2017年7月1日付で、連結子会社である株式会社SHカッパードクタツ他1社の所属するセグメント区分を「電線材料」から「特殊鋼製品」に変更し、当連結会計年度の業績は「特殊鋼製品」セグメントに計上。前年同期の数値も変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較。なお、株式会社SHカッパードクタツの業績は、前第4四半期連結会計期間より計上。

7. セグメント別業績：特殊鋼製品(2)

(金額単位：億円)		2016年度 実績 1\$=108円 1€=119円 1元=16.1円	2017年度 実績 1\$=111円 1€=130円 1元=16.8円	前年度 対比
特殊鋼製品	売上収益	2,432	2,906	+19%
	特殊鋼 [◎]	1,950	2,438	+25%
	工具鋼 [□]			+9%
	産業機器材料 [□]			+11%
	航空機・エネルギー [□]			△4%
	電子材料 [□]			+76%
	ロール [◎]	206	212	+3%
	軟磁性部材 [◎]	277	256	△8%
	調整後営業利益	235	279	+44
	調整後営業利益率	9.7%	9.6%	△0.1%
セグメント利益	222	261	+39	

◎ セグメント間相殺前の単純合計値

□ 簡易的な方法により集計した売上収益(金額)の増減比を表示

8. セグメント別業績：磁性材料(1)

■全体概況

【売上収益・調整後営業利益】

希土類磁石、フェライト磁石とも需要が増加し、増収・増益

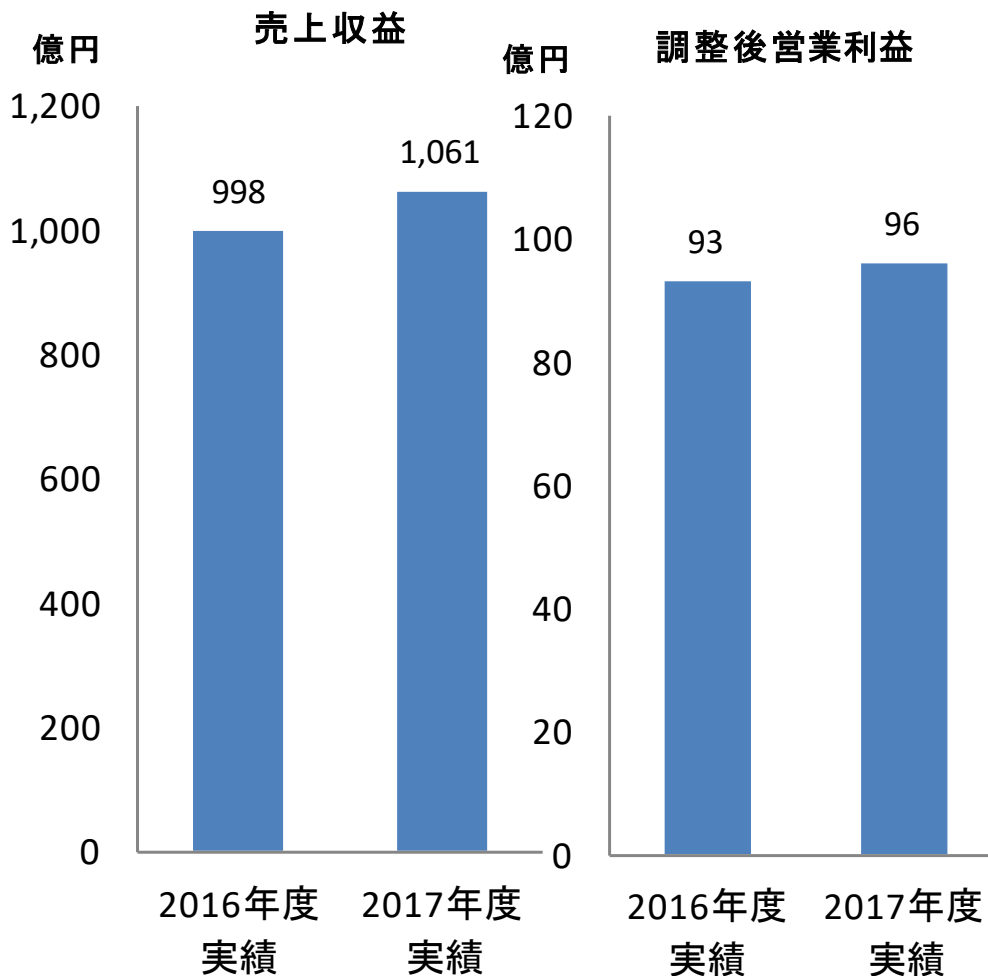
■製品別状況

【希土類磁石】

電動パワーステアリングおよびハイブリッド自動車等向けの自動車用電装部品の需要が増加
また、産業機器関連もロボット向けや、有機ELパネルおよび半導体等の設備投資関連の需要増加を受けて好調

【フェライト磁石】

自動車生産の伸びに伴い自動車用電装部品が好調となり、家電用部品も堅調に推移したため、前年同期と比べ増加



9. セグメント別業績：磁性材料(2)

(金額単位：億円)		2016年度 実績 1\$=108円 1€=119円 1元=16.1円	2017年度 実績 1\$=111円 1€=130円 1元=16.8円	前年度 対比
磁性材料	売上収益	998	1,061	+6%
	希土類磁石（重量）			+6%
	フェライト磁石（重量）			+1%
	調整後営業利益	93	96	+3
	調整後営業利益率	9.3%	9.0%	△0.3%
	セグメント利益	93	73	△20

10. セグメント別業績：素形材製品(1)

■全体概況

【売上収益】

鋳鉄製品や耐熱鋳造部品の需要増加により増収

【調整後営業利益】

耐熱鋳造部品やアルミホイールの収益性の低下により減益

【セグメント利益】

アルミホイール事業に関する減損損失の計上等によりその他の費用が増加し、減益

■製品別状況

【自動車用鋳物】

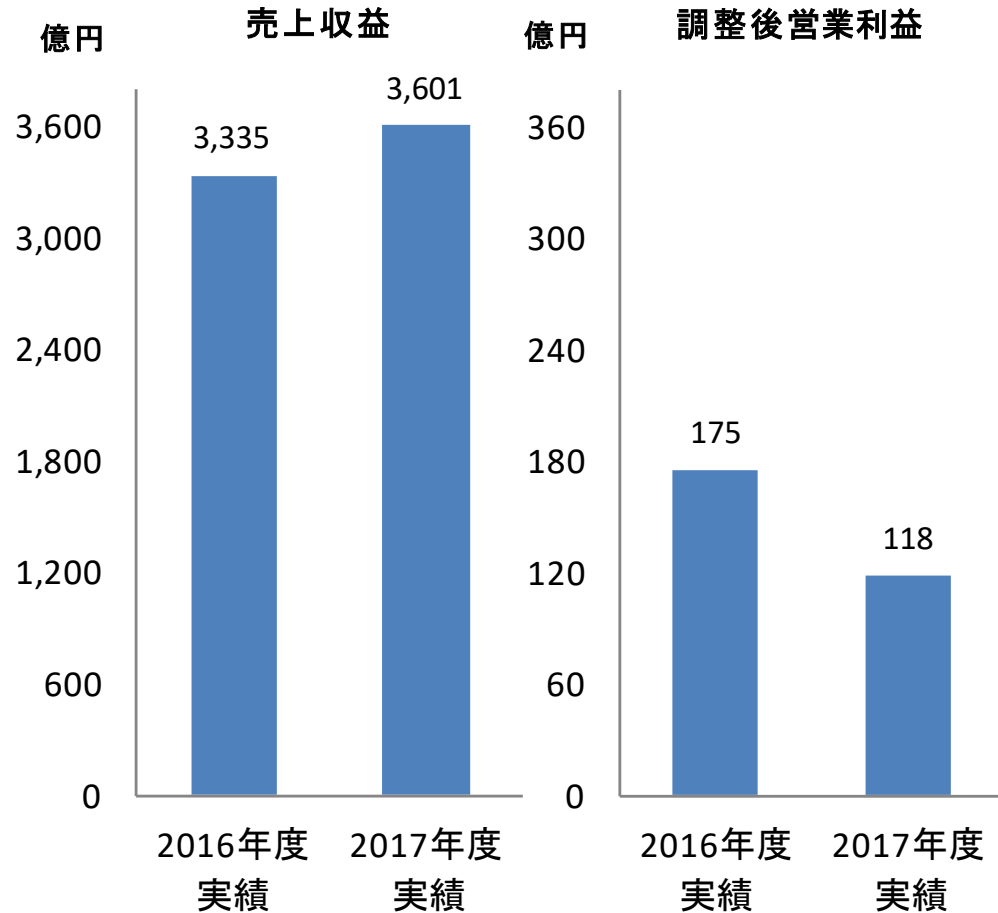
- ・鋳鉄製品：[北米]ピックアップトラック等のライトトラック向けや乗用車向けが減少するも、商用車や農業機械・建設機械向けの需要が増加
[アジア]自動車需要の伸長に伴い増加
全体としては前年同期と比較して増加
- ・耐熱鋳造部品：売上収益は米国・欧州・アジア・国内向けともに前年同期を上回ったが、生産性に関する課題等により、利益面では前年同期を下回った
- ・アルミホイール：北米の乗用車需要が減少した影響や生産性に関する課題等により、前年同期を下回った

【配管機器】

【継手類】米国の住宅着工戸数増加や、国内の大規模建設工事案件増加により堅調。

【その他】半導体関連の需要の増加を受けて半導体製造装置用機器が好調

配管機器全体としては前年同期を上回った



11. セグメント別業績：素形材製品(2)

(金額単位：億円)		2016年度 実績 1\$=108円 1€=119円 1元=16.1円	2017年度 実績 1\$=111円 1€=130円 1元=16.8円	前年度 対比
素形材製品	売上収益	3,335	3,601	+8%
	自動車用鋳物 [◎]	2,849	3,085	+8%
	鋳鉄製品（重量）			+1%
	耐熱鋳造部品 ハーキュナイト [®] （重量）			+39%
	アルミホイール（本数）			△18%
	配管機器 [◎]	486	515	+6%
	調整後営業利益	175	118	△57
	調整後営業利益率	5.2%	3.3%	△1.9%
	セグメント利益	159	6	△153

◎ セグメント間相殺前の単純合計値

12. セグメント別業績：電線材料(1)

■全体概況

【売上収益】

事業ポートフォリオ刷新を目的とした事業再編の影響により減収

【調整後営業利益】

注力分野の増加に伴い、増益

■製品別状況

【電線】

【鉄道車両用電線】中国向け等大きく伸長

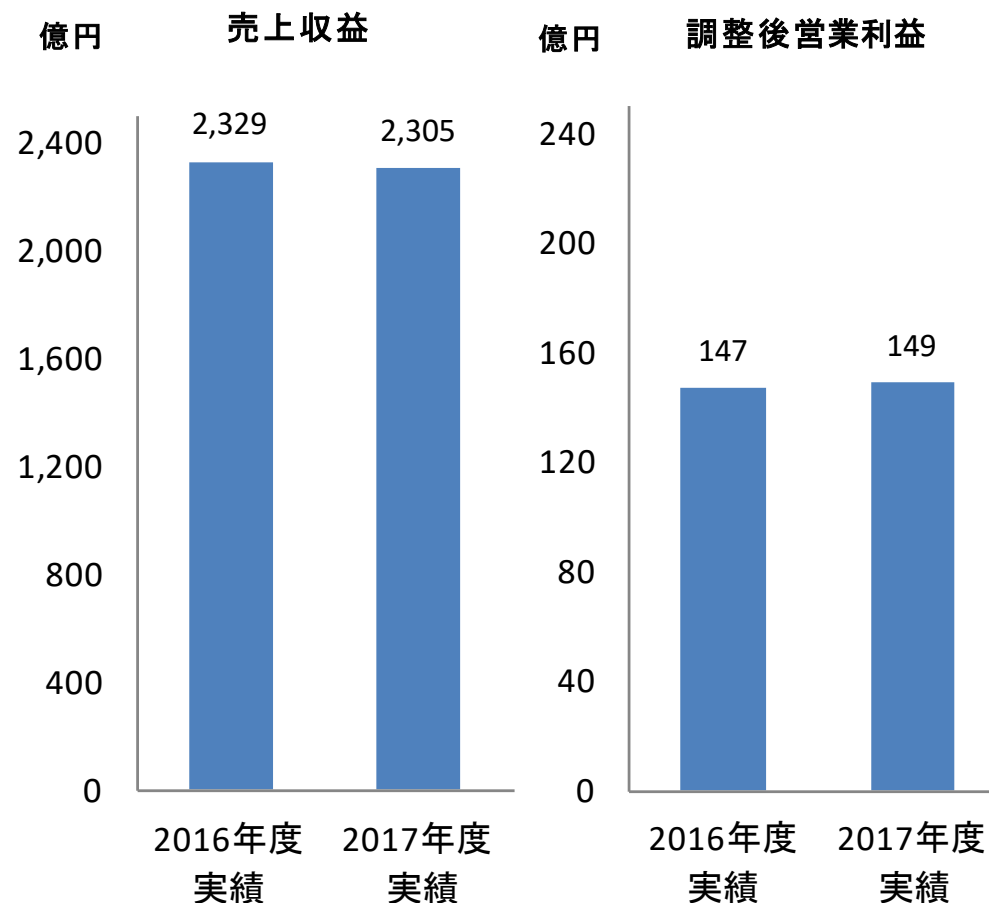
【機器用電線】半導体製造装置向けやFA・ロボット向け等が増加

【巻線】自動車向けや産業機械向けが好調

【機能品】

・自動車部品：各種センサや、電動パーキングブレーキおよびハイブリッド自動車向けのハーネスが伸長
ブレーキホースも堅調

・医療用プローブケーブル：海外向けの需要が増加し、前年同期を上回った



2017年7月1日付で、連結子会社である株式会社SHカッパープロダクツ他1社の所属するセグメント区分を「電線材料」から「特殊鋼製品」に変更し、当連結会計年度の業績は「特殊鋼製品」セグメントに計上。前年同期の数値も変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較。なお、株式会社SHカッパープロダクツの業績は、前第4四半期連結会計期間より計上。

13. セグメント別業績：電線材料(2)

(金額単位:億円)		2016年度 実績	2017年度 実績	前年度 対比	
		1\$=108円 1€=119円 1元=16.1円	1\$=111円 1€=130円 1元=16.8円		
電線材料	売上収益	2,329	2,305	△1%	
	注力分野	鉄道□			+31%
		医療□			+12%
		電装部品□			+20%
	調整後営業利益	147	149	+2	
	調整後営業利益率	6.3%	6.5%	+0.2%	
	セグメント利益	201	112	△89	

□ 簡易的な方法により集計した売上収益(金額)の増減比を表示

14. 資産/負債・純資産

(金額単位: 億円)	2016年度末 1\$=112円 1€=120円 1元=16.3円	2017年度末 1\$=106円 1€=131円 1元=16.9円	増減
資産合計	10,404	10,588	+184
うち売上債権及び棚卸資産	3,291	3,978	+687
負債合計	4,916	4,886	△30
うち有利子負債	1,945	1,608	△337
親会社株主持分	5,366	5,627	+261
非支配持分	122	75	△47
親会社株主持分比率	51.6%	53.1%	+1.5%
D/Eレシオ(倍)	0.36	0.29	△0.07

【資産】 前年度末比 184億円増加 ⇒売上債権、棚卸資産の増加等

【負債】 前年度末比 30億円減少

【D/Eレシオ】 前年度末比 0.07倍改善 ⇒借入金返済等により減少

15. 連結キャッシュ・フロー

(金額単位: 億円)	2016年度 実績	2017年度 実績	前年度対比
営業活動に関するキャッシュ・フロー	894	391	△503
投資活動に関するキャッシュ・フロー	△ 359	△ 751	△392
フリー・キャッシュ・フロー	535	△ 360	△895
コア・フリー・キャッシュ・フロー*	242	△ 384	△626

【営業キャッシュ・フロー】

四半期利益の減少や、売上債権、棚卸資産の増加等により、前年度対比503億円の減少

【投資キャッシュ・フロー】

有形固定資産の取得の増加(2016年度631億円→2017年度763億円)等により、前年度対比392億円の支出増加

【フリー・キャッシュ・フロー】

営業キャッシュ・フロー減少と投資活動増加に伴い、前年度対比895億円の減少

* コア・フリー・キャッシュ・フロー:(営業活動に関するキャッシュ・フロー) - (資本的支出)

16. 2018年度業績予想

(金額単位:億円) ()は利益率	2017年度 実績		2018年度 予想		前年度 対比
		1\$=111円 1€=130円 1元=16.8円		1\$=105円	
売上収益		9,883		10,200	+3%
調整後営業利益	(6.6%)	651	(7.2%)	730	+79
EBIT		489		670	+181
税引前当期利益		470		645	+175
親会社株主に帰属する当期利益		422		480	+58
ROE*1		7.5%		8.3%	+0.8%
ROA*2		4.0%		4.5%	+0.5%

●為替は円高傾向(2017年度実績111円/\$→2018年度想定105円/\$)

●主要製品を中心に堅調な需要が継続見込み

●積極的な設備投資により固定費が増加するが、価格是正の効果、課題事業の収益性改善および増産益刈り取りにより増益

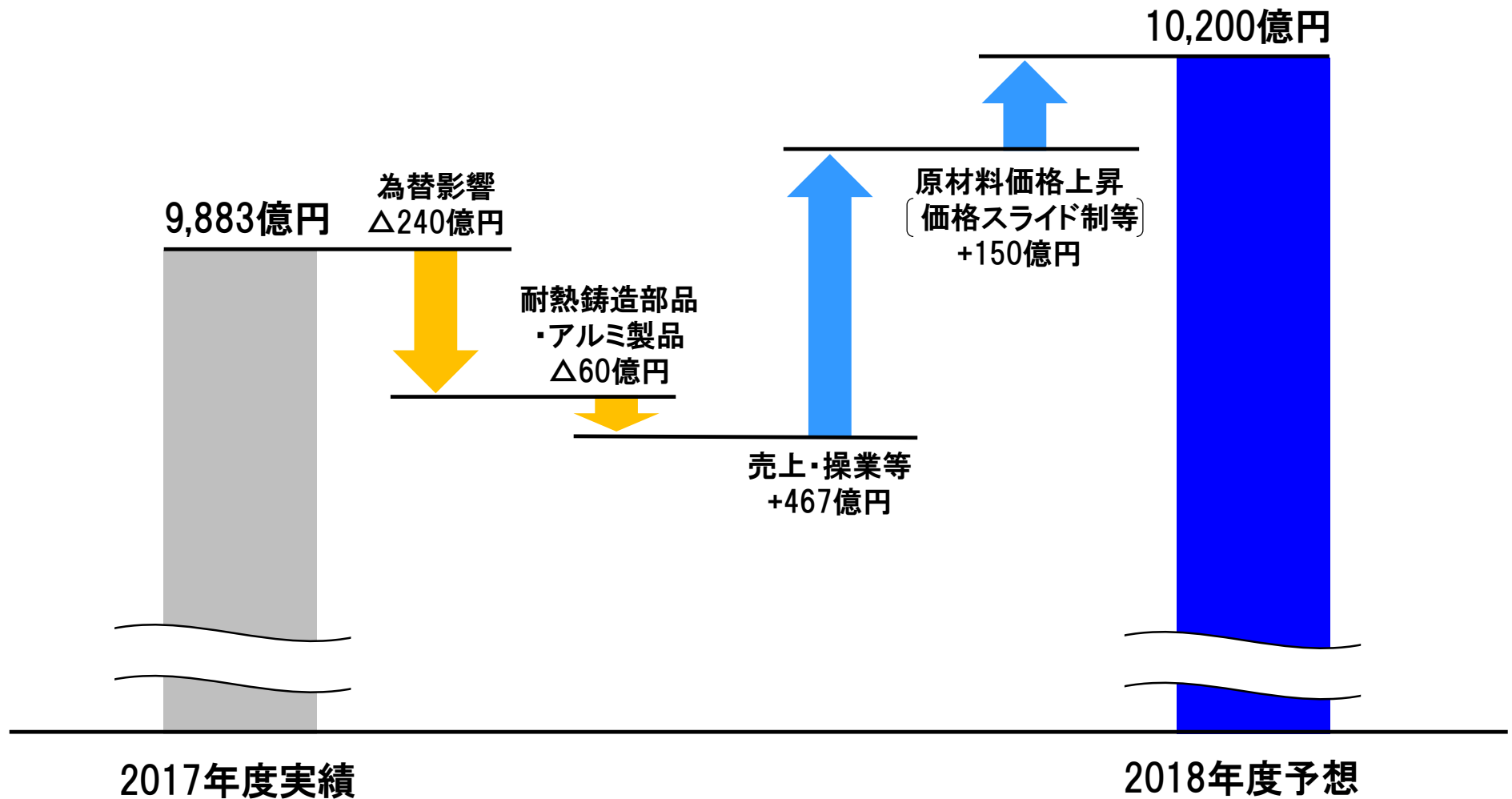
*1 親会社株主持分当期利益率(ROE) = 親会社株主に帰属する当期利益 ÷ 期末親会社株主持分 × 100

*2 資産合計当期利益率(ROA) = 親会社株主に帰属する当期利益 ÷ 期末資産合計 × 100

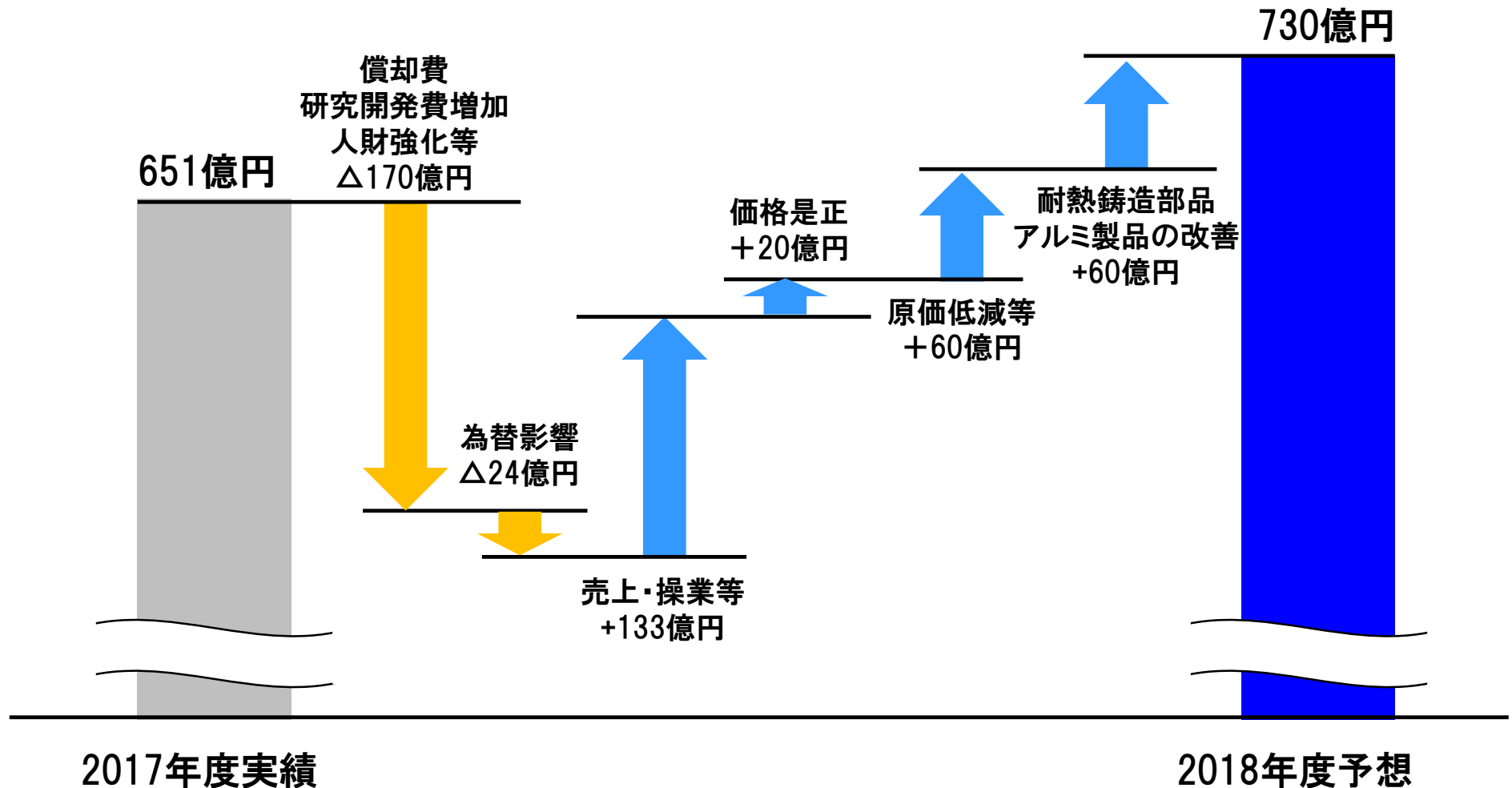
17. セグメント別 売上収益 調整後営業利益予想

(金額単位: 億円)		2017年度 実績	2018年度 予想	前年度 対比
		1\$=111円 1€=130円 1元=16.8円	1\$=105円	
特殊鋼製品	売上収益	2,906	3,200	+10%
	調整後営業利益	279	310	+31
	利益率	9.6%	9.7%	+0.1%
磁性材料	売上収益	1,061	1,150	+8%
	調整後営業利益	96	75	△21
	利益率	9.0%	6.5%	△2.5%
素形材製品	売上収益	3,601	3,450	△4%
	調整後営業利益	118	170	+52
	利益率	3.3%	4.9%	+1.6%
電線材料	売上収益	2,305	2,400	+4%
	調整後営業利益	149	170	+21
	利益率	6.5%	7.1%	+0.6%
その他・調整額	売上収益	10	0	
	調整後営業利益	9	5	
合計	売上収益	9,883	10,200	+3%
	調整後営業利益	651	730	+79
	利益率	6.6%	7.2%	+0.6%

18. 売上収益の増減要因(前年度対比)



19. 調整後営業利益の増減要因(前年度対比)



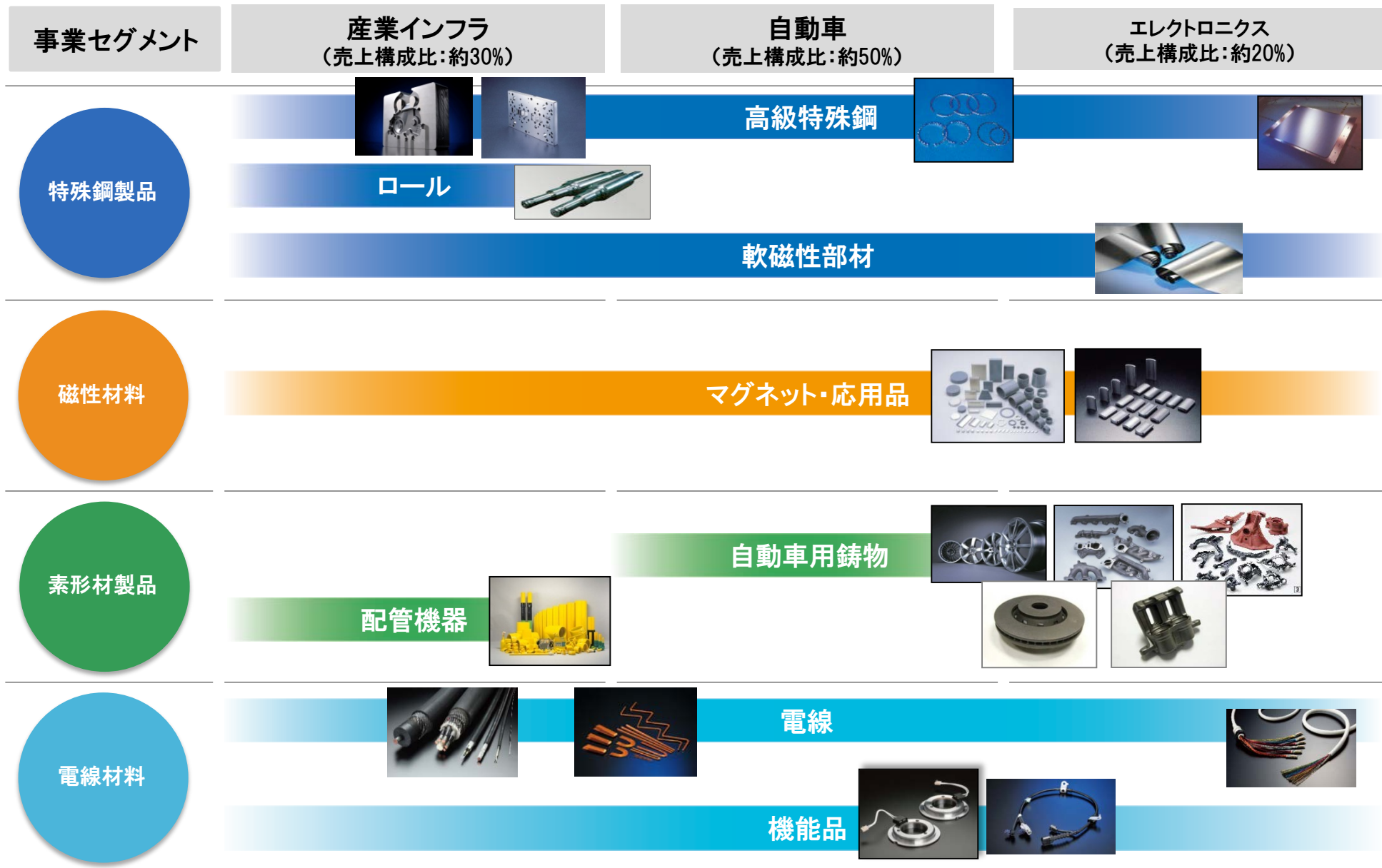
参考データ(1)

(金額単位: 億円)	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 予想
	1\$=100円	1\$=110円	1\$=120円	1\$=108円 1€=119円 1元=16.1円	1\$=111円 1€=130円 1元=16.8円	1\$=105円
売上収益	8,078	10,044	10,176	9,105	9,883	10,200
調整後営業利益	639	844	761	660	651	730
調整後営業利益率	7.9%	8.4%	7.5%	7.2%	6.6%	7.2%
その他の収益	58	213	364	141	54	
その他の費用	△ 163	△ 213	△ 125	△ 118	△ 242	
IFRS営業利益	534	844	1,000	683	463	
EBIT	575	886	991	685	489	670
税引前当期利益	558	864	962	660	470	645
親会社株主に帰属する当期利益	481	706	691	506	422	480
有利子負債	1,772	2,554	2,204	1,945	1,608	
設備投資額	320	515	596	638	918	1,000
減価償却費	338	399	429	430	461	550
研究開発費	168	209	191	180	177	210
D/Eレシオ(倍)	0.48	0.55	0.44	0.36	0.29	0.35
1株当たり当期利益(円)	116.79	165.02	161.50	118.32	98.72	112.26
1株当たり配当金(円)	17.0	23.0	26.0	26.0	26.0	26.0
1株当たり親会社株主持分(円)	870.4	1,090.6	1,159.7	1,254.9	1,316.1	1,408.5
人 員(人)	26,850	30,278	29,157	28,754	30,390	31,300
ROE	12.9%	15.1%	13.9%	9.4%	7.5%	8.3%
ROA	5.7%	6.5%	6.7%	4.9%	4.0%	4.5%
海外売上比率	42%	47%	56%	56%	56%	54%

主要製品 重量動向

製 品		17年度実績/16年度 実績対比	18年度予想/17年度 実績対比
特殊鋼製品	工具鋼	+2%	若干増
	CVTベルト材	+21%	横ばい
	ピストンリング材	+7%	+10% 強
	有機EL関連部材	+66%	+35% 強
磁性材料	希土類磁石	+6%	+10% 弱
素形材製品	鋳鉄製品	+1%	若干増
	耐熱鋳造部品 ハーキュナイト®	+39%	△10% 強
	アルミホイール(本数)	△18%	△10% 強

(参考) マーケット分野別事業構造



(参考) 日立金属 セグメント別事業内容(2017年10月1日～)

■日立金属の事業構造

事業セグメント	事業部門	主要製品
 特殊鋼製品	特殊鋼カンパニー	
	特殊鋼	高級特殊鋼[YSSヤスキハガネ](工具鋼、電子材料<ディスプレイ関連材料、半導体等パッケージ材料、電池用材料>、産業機器材料<自動車関連材料、剃刃材および刃物材>、航空機・エネルギー関連材料、精密鑄造品)
	ロール	各種圧延用ロール、射出成形機用部品、構造用セラミックス部品、鉄骨構造部品
	軟磁性部材	軟質磁性材料(アモルファス金属材料[Metglas®]、ナノ結晶軟磁性材料[ファインメット®]、ソフトフェライト)およびその応用品
 磁性材料	磁性材料カンパニー	
	マグネット・応用品	マグネット(希土類磁石[NEOMAX®]、フェライト磁石、その他各種磁石およびその応用品)、セラミックス製品
 素形材製品	素形材カンパニー	
	自動車用鑄物	自動車用鑄物(高級ダクタイル鑄鉄製品 [HNM®]、輸送機向け鑄鉄製品、排気系耐熱鑄造部品 [ハーキュナイト®])、アルミホイール [SCUBA®]、その他アルミニウム部品
	配管機器	設備配管機器(☺®印各種管継手・各種バルブ、ステンレスおよびプラスチック配管機器、冷水供給機器、精密流体制御機器、密閉式膨張タンク)
 電線材料	電線材料カンパニー	
	電線	産業用電線、機器用電線、電機材料、工業用ゴム
	機能品	ケーブル加工品、自動車用電装部品、ブレーキホース

※YSS、ヤスキハガネは日立金属の登録商標です。

本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となる主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米州、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動